

# くす通信

第269号  
2023年7月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

泌尿器科より

## 前立腺肥大症について 前立腺肥大症に対する 低侵襲治療について



### 「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

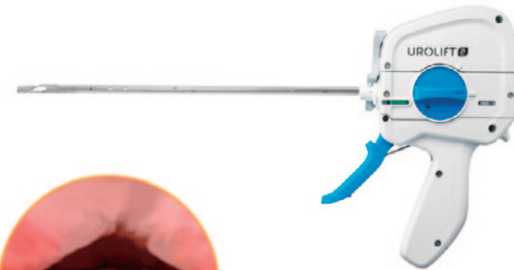
### 前立腺肥大の低侵襲性治療 経尿道的前立腺吊り上げ術(ウロリフト)



デリバリーデバイスを経尿道的に標的とする閉塞部位まで挿入します。



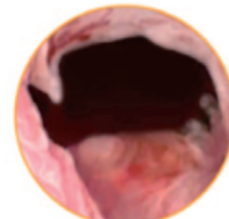
デリバリーシステムから送り出すニードルを介して留置される小型のインプラントによって、閉塞の原因となっている左右の前立腺葉を圧迫し、牽引します。



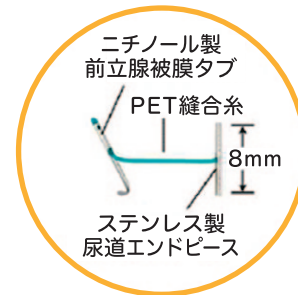
デリバリーハンドル



施行前



施行後



インプラント

テレフレックスメディカルジャパン株式会社様より許可を得て転載

### ②前立腺肥大症に対する低侵襲治療について

当院では、前立腺肥大症に対する低侵襲治療として経尿道的前立腺吊り上げ術(ウロリフト)を導入しております。心臓や脳の病気のために抗血小板薬や抗凝固薬(血液をサラサラにするお薬)を中止できない方、内科的な合併症により、従来の方法による手術リスクが高い場合にも治療の提供が可能となっています。日本では2022年4月に保険承認されており、当科では2023年2月より導入しております。欧米では2013年に承認されており、世界の一部の市場においては40万人以上が本治療を受け、長期効果が実証されています。

ウロリフトでは前立腺内に小型のインプラント(体内に埋め込まれる器具)を埋め込み、肥大した前立腺を吊り上げて尿道を広げ、排尿しやすくする治療法です。従来の前立腺肥大症の手術と異なり、電気メスを用いた前立腺組織の切開や切除、レーザーでの焼灼等を行わないため、体への負担が少ないのが特徴です。従来の手術では2時間程かかる場合も多かったですが、本治療法は手術時間が通常30分以内で済むため、侵襲が少なく、高齢の方でも安全に実施でき、入院期間も短縮できる手術方法です。内服治療より迅速な症状改善が期待でき、また、すでにお薬を内服中の方に関しては、服薬継続が不要となる可能性があります。他の手術法で生じうる逆行性射精も起こりにくいとされています。

前立腺肥大症の内服治療でお悩みの方は、ウロリフトの適応となる場合がありますので、是非当科にご相談ください。

## 前立腺肥大症 について

泌尿器科医師

むらかみ ひでとし

村上 栄敏



### ①前立腺肥大症について

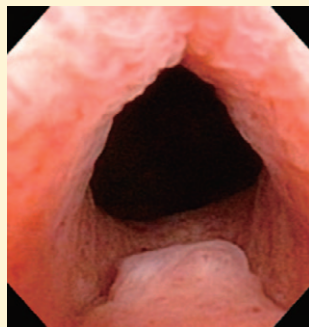
前立腺は男性にしかない臓器で膀胱のすぐ下で尿道を取り囲んでおり、前立腺液といわれる精液の一部を作ります。一般的な成人男性での前立腺の大きさは20ml 以下といわれています。

前立腺肥大症は、文字通り前立腺が肥大し、尿道が圧迫されて様々な排尿の症状（排尿障害（尿勢低下）と蓄尿障害（頻尿））を引き起こす病気です。重症の場合は膀胱から尿を排出するため、カテーテルの挿入をしたり、外科手術が必要になったりすることがあります。前立腺が肥大する原因は完全にはわかりませんが、男性ホルモンなどの性ホルモンが関与するといわれています。また、加齢や遺伝的要因、肥満、高血糖、高血圧、脂質異常、食生活などがリスク因子として挙げられています。

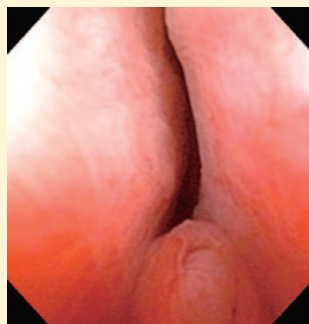
前立腺肥大症の治療としては尿道の圧迫を抑える内服薬から開始します。主な治療薬として、 $\alpha 1$  受容体遮断薬（タムスロシン、シロ

ドシンなど）、 $5\alpha$ 還元酵素阻害薬（デュタステリド）、抗アンドロゲン薬（抗男性ホルモン薬（プロスタールなど））などがあります。薬物療法を行っても排尿状態が悪い場合や、尿閉を繰り返す場合、また膀胱結石や腎機能障害がある場合、薬の長期服用を避けたい場合は手術治療を行います。

### 膀胱鏡所見



正 常



前立腺肥大症

## 泌 尿 器 科 の 紹 介

当院の泌尿器科は悪性腫瘍、下部尿路機能障害、男性不妊症、小児泌尿器科まで泌尿器科全般の治療を行っております。

特に悪性腫瘍には力を入れており、膀胱癌は年間患者数約300人であり、国内でもトップレベルです。令和2年からは筋層非浸潤膀胱癌に対して再発率低下を目的に光線力学診断技術（ALA-PDD）を開始しました。

標準的な治療に加え当院ならではの診療も提供しています。腎癌では令和1年より局所麻酔下に凍結治療を開始しており、前立腺癌でも平成26年より密封小線源治療を開始し低侵襲治療を積極的に取り入れています。

また、当院の特徴として救急疾患にも全て対応しています。お困りのことがあればお気軽にご連絡ください。

### 国立病院機構熊本医療センター

- 診 察 日 月曜日～金曜日
- 休 診 日 土・日曜日及び祝日  
年未年始（12月29日～翌年1月3日）
- 受付時間 8：15～11：00  
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5  
TEL 096(353)6501（代表）  
FAX 096(325)2519  
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。